# デンマーク語とドイツ語の対照研究

下　宮　忠　雄

二つの言語を対照的に研究する場合、日本語と英語のように距離が大きい言語間のほうが、差異が大きいので、より容易であり、英語とドイツ語のように距離の小さな言語間のほうが、むしろ難しいとも言える。デンマーク語はどうか。系統的には英語とドイツ語は同じ西ゲルマン語に属し、より近い。しかし、文法的・語法的にはドイツ語（西ゲルマン語）とデンマーク語（北ゲルマン語）のほうが類似点が多い。筆者にとって、デンマーク語は大学入学以前から取り組んでいた言語でもあるので、以下、音韻・形態・統辞・語彙・語法・意味など、なるべく多方面から考察することにする。そして、最後に索引の意味で語彙を添える。主材料はアンデルセン童話とそのドイツ語訳である。

[文献] Jan de Vries, Altnordisches etymologisches Wörterbuch. Leiden 1962.

Hjalmar Falk und Alf Torp, Norwegisch-dänisches etymologisches Wörterbuch. Heidelberg 1910-11.

Niels Åge Nielsen, Dansk etymologisk ordbog. København, Gyldendal, 1989.

Paul Diderichsen, Elementær dansk grammatik. 3.udgave, 7.oplag. København 1976.

Steffen Heger, Sprog og lyd. København, Akademisk forlag 1981.

Shimomiya, Tadao（下宮忠雄）「対照言語学の理論と実践」（学習院大学言語共同研究所紀要12、1989）

H.C.Andersen, Samlede eventyr og historier. Jubilæumsudgave. Odense, Skandinavisk bogforlag, 1982.

H.C.Andersen, Eventyr og historier (i udvalg ved Hans Brix). København, Gyldendalske boghandel Nordisk forlag, 1953.

Hans Christian Andersen, Sämtliche Märchen. 2 Bde. Darmstadt, Wissenschaftliche Buchgesellschaft, 1980.

Hans Christian Andersen's Fairy Tales. Oxford, World's Classics, 1959.

1．**系統**。デンマーク語はスウェーデン語・ノルウェー語・アイスランド語とともに北ゲルマン語（North Germanic）に属す。北ゲルマン語をノルド語（nordisk）ともいう。これは「北の（言語）」の意味である。西暦200－700ごろのノルド語をノルド祖語（urnordisk）とい

い、まだ未分化の状態であった。これがヴァイキング時代（750-1050）に徐々に今日の4言語に分化して行った。一方ドイツ語は英語・オランダ語とともに西ゲルマン語（West Germanic）のグループに属し、低地ドイツ語（Low German）と高地ドイツ語(High German)を含む。ここでは、高地ドイツ語を扱う。

2．**文字**。デンマーク語の文字は通常の26文字にæ, ø, å を加えて29文字。ドイツ語はä, ö, ü, ß を加えて30文字である。発音上 æ＝ä, ø=ö, å [ɔ:]（1948年以前はaaと書いた)、ドイツ語のüはデンマーク語では yと書かれる。ドイツ語のß＝ssである。

3．**発音**。デンマーク語はノルド語の中の英語に比せられ、文字と発音の不一致(discrepancy)が大きい。ドイツ語はその点、より表音的（phonetic）である。デンマーク語は mand（男、夫)、land（国）を [man'] [lan']（'は声門閉鎖を表す）のように発音する。スウェーデン語とノルウェー語は mann, land と書いて mann, lann のように子音を長く発音する。声門閉鎖(glottal stop, Kehlkopfverschluss）はドイツ語 erinnern（思い出させる)、Verein（協会）の -innern, -ein の前に生じる。ドイツ語の母音始まりの単語はすべて声門閉鎖を伴う。auf einer alten Eiche（ある古い樫の木の上で）は ‘auf ‘einer ‘alten ‘Eiche のように発音する。英語 yesterday evening の evening の前にも同じことが起こる。デンマーク語 mand, land の -d がサイレントになる現象は低地ドイツ語 kinner（＝ドイツ語 Kinder 子供たち）に似ている。デンマークの最南部では声門閉鎖は起こらない。デンマーク語 mand は Normandie（ノルマンデイー）の語源で、normand（北欧人）に Italie, Roumanie, Russie, Scandinavie と同じような語尾がついた。

デンマーク語では子音の同化（assimilation）が強力に起こる。drikke（trinken), takke（danken）は nk＞kk の結果であり、tak（ありがとう、Dank), fik（得た、fing)，gik（行った、ging）は ng＞nk＞kk＞k の結果である。この同化は他のノルド語にも起こった。

4．**文法性**。デンマーク語は共性（common gender）と中性（neuter gender)、ドイツ語は男性・女性・中性である。古代ノルド語（Old Norse）の時代には3つの性があったが、デンマーク語とスウェーデン語では男性と女性が同じになった。このことはオランダ語についても言える。ノルウェー語はまだ弱小だが、女性を回復しつつある。アイスランド語は3つの性を確実に保持している。デンマーク語 mand-en＝der Mann, frue-n＝die Frau, barn-et＝das Kindのように、定冠詞は名詞のあとに接尾する。これを後置定冠詞（postposed article, suffixed article, slutartikel）といい、アルバニア語、ブルガリア語、アルメニア語、バスク語にも起こる。ドイツ語 die Universität（女性）＝デンマーク語 universitet-et（中性）のように、文法性が異なる場合がある。

不定冠詞の用法はドイツ語・デンマーク語が共通している。Er ist Student, er ist ein japanischer Student はデンマーク語でも han er student, han er en japansk student となる。英語は He is a student, he is a Japanese student である。

5．**性・数の一致**（agreement）が厳格に守られるのが印欧語の特徴であるが、ドイツ語の形容詞は述語的（predicative）に用いられた場合は変化しない。

ein großes Haus＝デンマーク語 et stor-t hus（-t は形容詞中性語尾）

das Haus ist groß＝　　hus-et er stor-t（述語的にも -t がつく）

zwei große Häuser＝　　to stor-e hus-e（-e は形容詞複数、名詞複数）

die Häuser sind groß＝　　hus-ene er stor-e （-ene は後置定冠詞複数）

6．**格変化**。ドイツ語は der Mann, des Mannes, dem Mann, den Mann の 4 つを保持しているが、デンマーク語は mand-en（＝der Mann, dem Mann, den Mann）と mand-en-s（＝des Mannes）の 2 つになってしまった。主格と目的格が同じになってしまったので、これを共格（common case）という。これは英国の学者 Henry Sweet の用語である。en stor mands (eines großen Mannes), en smuk dames (einer schönen Dame) のように、「形容詞＋名詞」の属格（genitive）は名詞の後に -s をつけるだけである。前置詞til “to, till, zu” は属格支配で、til bords “at table, zu Tisch”, til fods “on foot, zu Fuß”, til lands（陸路、陸を）、til søs（海路、海を）など成句に残る。一般に、デンマーク語は文法の簡略化（simplification）がスウェーデン語やノルウェー語以上である。

7．**名詞の複数**。ドイツ語は der Vater (die Väter), der Tag (die Tage), das Kind (die Kinder), die Frau (die Frauen), das Hotel (die Hotels) のように主要な 5 つの形式が同じぐらいの頻度で残っているが、デンマーク語は次の 3 種類に減ってしまった。

1. en blomst (eine Blume), to blomster (zwei Blumen) [語尾 -er ]
   en bog (ein Buch), to bøger (zwei Bücher) [ウムラウトするものもある]
2. en dag (ein Tag), to dage (zwei Tage) [語尾 -e ]
   en far (ein Vater), to fædre (zwei Väter) [ウムラウトするものもある]
3. et år (ein Jahr), to år (zwei Jahre) [語尾ゼロ]
   en mand (ein Mann), to mænd [ウムラウトするものもある]

ウムラウト複数はドイツ語よりは少ないが、英語よりはずっと多い。スウェーデン語は -or, -ar, -er の語末母音が区別されているので、5 種類が残っている。デンマーク語ではこの 3 種が -er に統一されてしまった。

8．**形容詞の強変化と弱変化**。

den store bog (das große Buch)

de store bøger (die großen Bücher)

en stor bog (ein großes Buch)

to store bøger (zwei große Bücher)

det store hus (das große Haus)

de store huse (die großen Häuser)

et stort hus (ein großes Haus)

to store huse (zwei große Häuser)

上例に見るように、デンマーク語のほうがずっと単純化してしまった。ドイツ語は、この上、さらに格変化がある。den store bog (das große Buch) のように「形容詞＋名詞」の場合には定冠詞は形容詞の前に置かれる。この den は形態論的には対格で、ドイツ語と同じ形をしている。なお「本」はノルウェー語とアイスランド語では女性名詞、デンマーク・スウェーデン語では共性名詞である。

lille（klein）は英語 little の tl が同化（assimilation）した結果であるが、名詞が複数の場合は別の形容詞 små を用いる。en lille havfrue (a little mermaid), seks små havfruer (six little mermaids) のようになる。

9．**数詞**。ドイツ語の20－90は zwanzig, dreißig, vierzig, fünfzig, sechzig, siebzig, achtzig, neunzig のように十進法（decimal system）であるが、デンマーク語は二十進法（vigesimal system）が残っている。50 halvtreds, 60 tres, 70 halvfjerds, 80 firs, 90 halvfems はそれぞれ "half of the three (times twenty)" cf. ドイツ語 halb drei 2時半、"three (times twenty)", "half of the four (times twenty)", "four (times twenty)", "half of the five (times twenty)" の意味である。この二十進法的表現はスウェーデン語・ノルウェー語・オランダ語などにもなく、フランス語に部分的に、ケルト諸語により完全な形で残っている。これはケルト語学者 Julius Pokorny によると、1900 B.C. ごろヨーロッパに移住してきた armenoide Glockenbecherleute（アルメノイド系鐘形杯民族 Beaker folk）がもたらしたもので、その民族がかつて居住していたところに残ったという。バスク語・コーカサス諸語は二十進法をもっている。21－99の二桁数詞は、ドイツ語 einundzwanzig と同様、デンマーク語も enogtyve（1＋20）の順序になる。オランダ語も同様にeen en twintigとなる。スウェーデン語・ノルウェー語は英語と同様（20＋1）の順序である。英語も古くはone and twentyと言った。Robinson Crusoe（1719）には six and twenty years, four and twentieth year などと出てくる。

デンマーク語の序数 den første, den anden, den tredje...はドイツ語 der erste, der zweite, der dritte...と比べると、første は英語 first と同様「一番前に」（cf.ラテン語 prae）、ドイツ語 erste は ehe（...する前に、cf. 英語 ere）の比較級 eher に最上級の語尾がついたものである。anden（別の、第2の）は other, der andere と同じ語源である。

10．**人称代名詞**。ドイツ語の二人称親称 du, 敬称 Sie はデンマーク語では du と De であるが、De は用いられる度合いがずっと少ない。ドイツ語は er gibt mir ein Buch と er liebt michのように与格と対格を区別するが、デンマーク語は han giver mig en bog, han elsker mig で、両方とも同じ形を用いる（この dative-accusative syncretism は英語も同じである）。デンマーク語の mig（私に、私を）は語源的にドイツ語 mich と同じで、本来は accusative である。michはゴート語 mik, 古代ノルド語 mik に対応する（book＝Buch と同じである）。

英語は I give him a book, I love him のように与格が残り対格が消えた。デンマーク語は hvem elsker dig?（誰が君を愛しているのか）、hvem elsker du?（君は誰を愛しているのか）のように hvem を「誰が」と「誰を」に用い、主格（hvo）が消えて与格が残った。dem は形態論的には与格だが、「彼らに」「彼らを」に用いられる。英語の them にあたる。親称 du の複数「君たち」は I で、語源的に英語の ye にあたる。1611年の聖書に ye are the salt of the earth（汝らは地の塩である）と出てくる。ye の目的格 you が主格にも用いられ、単数にも用いられるようになった。ye＝ドイツ語 ihr.「それは私です、きみです、彼です」のデンマーク語は det er mig, det er dig, det er ham のように目的格になる（ich bin es, du bist es, er ist es, it is me, it is you, it is he, c'est moi, c'est toi, c'est lui）。

11．**所有代名詞**。min (mein), din (dein) は性と数にしたがって変化する。min bog (mein Buch), mit hus (mein Haus), mine bøger (meine Bücher), mine huse (meine Häuser) のようになる。din, dit, dine も同じ。hans（彼の）、hendes（彼女の）、deres（彼らの）はhan（彼）、hun（彼女）、de（彼ら）の属格で、次の名詞のいかにかかわらず、変化しない。hans bog, hans hus, hans bøger, hans huse など。このことは、ロシア語の jego（彼の）、eë（彼女の）、ih（彼らの）が無変化であるのと似ている。デンマーク語 vores（われわれの）、jeres（君たちの）も無変化である。sin（彼の、彼女の）は主語と同じ人物の場合に用いる。han giver mig sin bog (he gives me his own book), han giver mig hans bog (he gives me his book [another man's book]), damen kommer med sit barn (the lady comes with her own child), damen kommer med hendes barn (the lady comes with her child [another lady's child])。ドイツ語 sein Buch (his book), ihr Buch (her book)、デンマーク語 hans bog, hendes bog は「彼の」「彼女の」を区別できるが、フランス語 son livre (his book, her book), sa maison (his house, her house) はそれができない。スペイン語はもさらに不便で、su libro は his book, her book, their book, your book, sus libros は his books, her books, their books, your books にあたる。

12．**関係代名詞**。ドイツ語が der, die, das, die のように指示代名詞に由来する（cf. the book that I bought yesterday）ものと、古くは welcher, welche, welches, welche のように疑問代名詞に由来するものを用いるのに対し、デンマーク語は性・数・格に関係なく som を用いる。疑問代名詞由来の関係代名詞はラテン語ないしフランス語を模倣したものである（qui, que, lequel, laquelle etc.）。der Mann, der kommt＝manden, som kommer；die Männer, die kommen＝mændene, som kommer；die Dame, die nicht kommt＝damen, som ikke kommer；den mand, som jeg kender＝manden, som jeg kender のように。ドイツ語と同様、制限的・非制限的のいかにかかわらず関係文の前に comma を置く。関係文の動詞の位置は、ドイツ語やオランダ語と異なり、主語＋動詞＋その他となる。bogen (*or* den bog), som jeg købte igår（＝das Buch, das ich gestern gekauft habe）[igår＝gestern]。der は主格にのみ用いられる。de mennesker, der rejser imorgen (die Leute, die morgen reisen, the people who leave tomorrow), den dame,

der kender mig (die Dame, die mich kennt ; the lady who knows me)。

ドイツ語の関係代名詞は省略されることがないが、デンマーク語は目的格の場合、省略することができる。den bog, jeg købte igår (the book I bought yesterday), det hus, han bori, er mit (the house he lives in is mine)。英語と同じである。デンマークの英語学者Otto Jespersenは英語の目的格関係代名詞の省略はノルド語の影響であると言っている。英語やデンマーク語では、次のような副詞的対格（adverbial accusative）の場合も省略しうる。She knew this was the last evening she would ever see him＝hun vidste, det var den sidste aften, hun så ham（人魚姫はこれが王子を見ることのできる最後の晩だということを知った）デンマーク語の原文が普通の過去形であるのに、英語は接続法を用いている。

13. **疑問代名詞**。welcher Herr, welche Dame, welches Kind, welche Bücher は hvilken herre, hvilken dame, hvilket barn, hvilke bøger だが、口語では hvad for en herre, hvad for en dame, hvad for et barn, hvad for nogle bøger のように言う。was für ein Herr, was für eine Dame にあたる。hvem（誰が、誰に、誰を）は語源的には与格だが、主格・与格・対格に用い、ドイツ語 wer, wem, wen にあたる。「何」hvad は what, was と同様、語源的にラテン語 quod にあたる。

14. **不定代名詞**。ドイツ語もデンマーク語も man を用いる。普通名詞 Mann, mand の弱い形である（フランス語 on も homme の弱形）。man siger (man sagt, on dit, they say, it is said); det kan man gøre, som man vil (that you may do as you like); man spiser godt på den restaurant (that restaurant has good food); man kan ikke sige nej (one cannot decline)

15. **再帰代名詞**。ich freue mich, du freust dich, er freut sich, wir freuen uns, ihr freut euch, sie freuen sich＝jeg glæder mig, du glæder dig, han glæder sig, vi glæder os, I glæder jer, de glæder dem. sig はゴート語 sik, 古代ノルド語 sik, ロシア語 -sja, 印欧語*se, ラテン語 suus など広く普及している。

16. **形容詞の比較**。schön, schöner, schönst＝smuk, smukkere, smukkest のようにゲルマン語的、印欧語的な語尾を用いて比較級・最上級を作る。groß, größer, größt＝stor, større, størst ; lang, länger, längst＝lang, længere, længst のようにウムラウトするものもかなりある。デンマーク語では二者の比較に最上級が用いられる。den ældste af de to brødre＝der ältere von den beiden Brüdern, the older of the two brothers ; I Danmark er der to universiteter. Den ældste og største er i København, det yngste og mindste er i Århus（デンマークには大学が二つある。古く大きいほうはコペンハーゲンに、新しく小さいほうはオールフスにある）これは1953年の教本の用例で、den ældste og største＝der ältere und größere, the older and larger; den yngste og mindste＝der jüngere und kleinere, the younger and smaller となる。

17. **副詞**。ドイツ語は形容詞がそのまま副詞となるが、デンマーク語は形容詞の中性形が副詞となる。Er spielt schön＝han spiller smukt, he plays beautifully (cf. er ist schön, han er smuk).

比較級と最上級は形容詞と同じ。Sein Bruder spielt schöner＝hans bror spiller smukkere, his brother plays more beautifully；ihr Vater spielt am schönsten＝deres far spiller smukkest, their father plays most beautifully. デンマーク語は場所の副詞に静止と方向を区別する。「そとに（いる）」は ude,「そとへ（行く）」は ud,「中に（いる）」は inde,「中に（はいる）」は ind,「むこうに（いる）」は borte,「むこうへ（行く）」は bort のように。han er ude＝er ist draußen, he is outside；han går ud＝er geht aus, he goes out；hun er borte（彼女はいない、留守だ）＝sie ist weg, she is away；hun går bort＝sie geht weg, she goes away；langt ude i havet＝weit draußen im Meer（海のずっと沖に）、far out to sea（アンデルセン「人魚姫」の書き出し）。

**18. 強変化動詞と弱変化動詞。**動詞の主要な二つの区別は原則的にすべてのゲルマン語に共通であるが、デンマーク語で弱変化に変わったものもある。「読む」「泳ぐ」「洗う」「成長する」について見ると、ド lesen-las-gelesen（強変化）、デ læse-læste-læst（弱変化）、エ read-read-read（歴史的には弱変化）；ド schwimmen-schwamm-geschwommen（強変化）、デ svømme-svømmede-svømmet（弱変化）、エ swim-swam-swum（強変化）；ド waschen-wusch-gewaschen（強変化）、デ vaske-vaskede-vasket（弱変化）、エ wash-washed-washed（弱変化）；ド wachsen-wuchs-gewachsen（強変化）、デ vokse-voksede-vokset（弱変化）、エ wax-waxed-waxed（月が満ちる、弱変化）。デ begynde（始まる、始める）は弱変化になってしまったが、ドイツ語・英語は強変化（上の泳ぐと同じ）を保持している。デ hjælpe-hjalp-hjulpet（助ける）、ド helfen-half-geholfen は強変化だが、エ help-helped-helped は弱変化になってしまった（Old English, Middle English では強変化）。デンマーク語の強変化動詞の過去分詞は give-gav-givet（与える）、gå-gik-gået（行く、歩く）、tage-tog-taget（取る）に見るように弱変化の語尾-t をとっている（この点、スウェーデン語やノルウェー語も同じ）。英語でさえ given, gone, taken のように強変化の特徴である -n を保持している。英語 rise-rose-risen（起きる、太陽が昇る）は強変化であるが、それと同じ語源のド reisen（旅行する）は reiste-gereist で弱変化、デ rejse（旅行する）も rejste-rejst で弱変化。これはドイツ語とデンマーク語が、より近い例である。

デンマーク語の動詞は人称変化を失ってしまい、"be" 動詞のような不規則なものも、jeg er, du er, han er, vi er, I er, de er となる。ich habe, du hast, er hat, wir haben, ihr habt, sie haben はjeg har, du har, han har, vi har, I har, de har となる。"be" の 3 基本形 sein-war-gewesen のデは være-var-været で、この 3 つに共通の語根は*wes-、ゴート語 wisan（滞在する）である。人称変化の消失はスウェーデン語・ノルウェー語にも起こった。人称変化の豊富はドイツ語とアイスランド語に保たれているが、これはゲルマーニア（ゲルマン語地域）の両極端に位置していることによる。アンデルセンの時代（1805-1875）にはまだ jeg er "ich bin", vi ere "wir sind", jeg kommer "ich komme", vi komme "wir kommen" のように単数の人称と複数の人称を区別していた。尾崎義『スウェーデン語四週間』（大学書林、1955）はまだ jag är "ich bin", vi äro "wir sind" の変化を掲げている。

19. **現在分詞**。a student learning Danish のような表現はドein Student, der Dänisch lernt, デen student, som lærer dansk のように関係文で表す。How handsome the young prince was, shaking everyone by the hand, laughing and smiling.（若い王子はどんなに美しかったでしょう、王子は人々と握手して、ニコニコほほえんでいます）の現在分詞はデ hvor dog den unge prins var smuk, og han trykkede folkene i hånden, lo og smilede. ドwie war doch der junge Prinz schön, und er drückte den Leuten die Hände, lachte und lächelte. のように単純な過去で表現されている。

20. **過去分詞**。他の言語と同様、助動詞とともに用いて完了時制を作り、blive とともに受動態を作る。デ jeg har købt mange bøger＝ドich habe viele Bücher gekauft;I have been in Copenhagen several times のような場合、デ jeg har været mange gange i København, ドich bin mehrmals in Kopenhagen gewesen のように、デは "have" 動詞を、ドは "be" を用いる。オランダ語・イタリア語は "be"、フランス語・スペイン語は "have"。デは gå（行く、歩く）、begynde（始まる、始める）、rejse（旅行する）の助動詞に "be" を、ドはこの3つのうち beginnen は "haben" を用い、gehen, reisen は "sein" を用いる。デ Far er rejst til Island＝ドVater ist nach Island gereist. デの過去分詞は（ドイツ語と異なり）助動詞のすぐ後に来る。過去分詞は強変化・弱変化とも -t に終わるが、finde (finden), skrive (schreiben), forsvinde (verschwinden) の過去分詞は fundet, skrevet, forsvundet のほかに古形 funden, skreven, forsvunden があり、de fundne ting（見つかったもの、複数）、den skrevne bog（書かれた本）、den forsvundne bil（消えた車）のように用いられる。blive は助動詞に "be" をとる。Bøgerne er blevet solgt＝ドdie Bücher sind verkauft worden, the books have been sold.

21. **受動態**。デンマーク語の受動態は -s によるもの（medio-passive）と blive によるものと2種類あり、口語は後者を好む。Penge veksles（お金は両替される、両替所）、vasketøjet hentes og bringes（洗濯物は取りに来られて持参されます、洗濯物は取りに伺って配達します；wird abgeholt und geliefert）、のように一般的な内容の場合に用いられる。この -sは sik（自分を）から来て、lægge（置く）、lægges（自分を置く、置かれる）、elske（愛する）、elskes（愛される）、tænde（明かりをつける）、tændes（明かりがつけられる）のように用いる。

22. **接続法**。Kongen leve（王様が生きますように、王様万歳）のような成句を除けば、デンマーク語の接続法は英語と同じように貧弱になってしまった。måtte, kunne などの助動詞を併用する。Hun var den eneste, jeg kunne elske i denne verden＝Sie wäre die einzige, die ich in dieser Welt lieben könnte（私がこの世で愛することのできる人がいるとすれば、彼女が唯一の人でしょう）。ドイツ語は原文以上に豊富に接続法を用いている。Det var synd（残念です）の過去（var）も感情を込めた接続法から来ていると考えられる。

23. **語順**。ドイツ語と同じく、デンマーク語でも副詞が文頭にくると、動詞＋主語の順になる。da kom han（そのとき彼は来た）、da han kom（彼が来たとき）。否定の副詞 ikke は従属文に

おいては動詞の前に来る。han kommer ikke（彼は来ない）、når han ikke kommer（もし彼が来なければ）。

24. **語形成**。ドイツ語と同様、デンマーク語も複合語が多い。人魚姫の父は「海の王」havkonge（Meerkönig）として登場するが、この英語は merking（mer-king）になっている。「人魚族」havfolk（Meerleute）は英語 merfolk（mer-folk），6 人の「人魚姫」de små havprinsesser (die kleinen Meerprinzessinnen) の英語は the little merprincesses となっている。40万語を収める The Oxford English Dictionary に mermaid, merman は登録されているが、merking, merfolk, merprincess は載っていない。

派生語尾もドイツ語と同じ daglig (täglich), ugelig (wöchentlich), årlig (jährlich) などがあるが、ドイツ語にくらべてウムラウトが少ない。englænderinde(Engländerin), japanerinde(Japanerin), spillerinde (Spielerin) のように -inde も多い。ドイツ語 Ausländer（外国人）はデンマーク語でも udlænding のようにウムラウトしている。

25. **語彙**。ドイツ語 König-Königin-königlich（王・女王・王の）は 3 者共通だが、デンマーク語 konge-dronning-kongelig は 2 者のみ共通なので、ドイツ語のほうが、語彙の整合性が高い。英語 king-queen-royal は 3 者バラバラである。ド Eingang-Ausgang（入口・出口）、デindgang-udgang、ギリシア語 eísodos-éksodos，ロシア語 vxod-vyxod はすべて接頭辞だけで区別している。英語 entrance-exit，フランス語 entrée-sortie は両者バラバラである。フランス語は過去分詞の女性形が名詞になる点が共通している。この点はスペイン語・イタリア語も同じである。

親族関係の用語（kinship terms, Verwandtschaftsnamen）はドイツ語もデンマーク語も原則的に同じであるが、Großvater, Großmutter (grandfather, grandmother) は父方の祖父と母方の祖父、母方の祖父と母方の祖母を区別し、farfar, morfar, morfar, mormor という。人魚姫は父と祖母と暮らしている（母は人間の遭難船に巻き込まれて亡くなった）が、その 6 人の人魚姫は祖母から見て sønnedøtre（息子の娘たち）“Sohnstöchter” となっている。前半の sønne- は複数属格である（cf. børnehave 幼稚園）。ちなみにドイツ語の Groß- はフランス語の翻訳借用である。オランダ語も同様。

“do”, “make” のような基本語がドとデで異なっている。ド tun, machen＝デ gøre, lave. do, tun の印欧語根は *dhē-（サンスクリット語 dá-dhā-mi, ギリシア語 tí-thê-mi, ラテン語 facio）「置く」であったが、「する」の意味に一般化され、ゲルマン語では*dō「する」のアオリスト形が弱変化動詞の過去を作る形態素になった。work-ed, arbeite-te は「働くことを＋した」が原義である。make, machen は印欧語根*mag-（[粉を]こねる）に由来し、ノルド語共通の gøre は形容詞*garwa-（準備のできた）から作られた動詞で「準備する」が原義。ドイツ語 gar（煮えた、調理のできた）も同源。「作る」のデ lave は古代ノルド語 laga（準備する）で、leggja（置く、正しい位置に置く）と同源。

名詞も「馬」（デ hest, ド Pferd）、「火」（デ ild, ド Feuer）など基本語が異なることがある。Pferd はオランダ語 paard と同様、中世ラテン語 paraveredus（郵便馬、para かたわらの、支線の、veredus 馬車）より。形容詞のうちではgammel（古い、年老いた）、stor（大きい）がノルド語特有。「ビール」の øl はノルド語共通で、スウェーデン語からフィンランド語 olut に借用された。リトアニア語 alùs（ビール）もゲルマン語からの借用である。ビールは中世ドイツの修道院で作られたもので、ラテン語 bibere（飲む）からきて、「飲み物」の意味である。ド Bier，フ bière，エ beer，オ bier，イタリア語 birra などのドイツ語から来た。日本の「ビール」はオランダ語からである。英語には古代ゲルマン的な ale と近代的な beer の両方がある。

26. **語法。**「おはよう」「こんにちは」「こんばんは」などは、他のヨーロッパ諸語と同様、デ・ド共通であるが、「さようなら」のデ Farvel! は「元気で行きなさい」（cf. farewell, fare thee well），ド Auf Wiedersehen（再会を期して）だが、デ på gensyn（再会を期して）もある。デンマーク語には Tak for mad!（食事をありがとう、ご馳走さま）がある。

27. **分析例。**

1．アンデルセンの「えんどう豆の上に寝たお姫さま」は156の童話のうち、最も短く、最も愛好されているお話で、1835年の作品である。王子は本当のお姫さまを探して世界一周の旅に出た。本当のお姫さまとは、血筋・容姿・やさしい心の三拍子そろったお姫さまをさす。しかし王子は理想の女性にめぐり合うことができなかった。

En aften blev det da et frygteligt vejr; det lynede og tordnede, regnen skyllede ned, det var ganske forskrækkeligt! Så bankede det på byens port, og den gamle konge gik hen at lukke op.（ある晩、恐ろしい天気になりました。稲妻が光り、雷が鳴りました。雨が土砂降りとなり、まったく恐ろしいことでした。すると町の門をたたく音がしました。そこで年老いた王さまが開けるために出て行きました）

Eines Abends war ein fürchterliches Wetter; es blitzte und donnerte, der Regen strömte hernieder, es war ganz schrecklich! Da pochte es ans Stadttor, und der alte König ging hin, um aufzumachen.

「ある晩」がドイツ語では副詞的属格（adverbial genitive）であるが、デンマーク語では格語尾ゼロ（＝副詞的対格）になっている。デ は genitive の用法が非常に少ない。i søndags（先週の日曜日）のような場合には genitive を用いる。「恐ろしい天気になった」がデは blev（なった）だが、ドは war（であった）となっている。「稲光がした」デ det lynede は名詞 lyn（稲光、cf. lyntog 特急列車）より、ドes blitzte は名詞 Blitz（電光、cf. Blitzkrig 電撃戦）より。「土砂降りになった」デ skyllede は skylle（注ぐ）、ド strömte hernieder（下に流れ落ちた）は名詞 Strom（川、流れ）より。「ノックした」デ det bankede，ドes pochte（ともに擬音語より）。ドes klopfte の訳もある。「…にノックした」の前置詞はデ på（語源的に“up＋on”）、

ドは an（語源的に英語 on）。「町の門」デ byens port, ド Stadttor, デの port はラテン語より。ドは両方の要素とも本来のドイツ語。デは属格を用いているが、ドは「名詞＋名詞」。by（町）はノルド語特有（“be” と同根）で、デンマークのヴァイキングが９世紀に英国に持ち込んだもの。Derby, Whitby, Sandby, Rugby などの地名に残る。Derbyは “deer-town” の意味である。Stadt は印欧語根*stā-（立っている）で、Afghanistan, Pakistan, Daghestan などの -stan（国）も同様である。「年老いた」デ gammel（定形 -e がついて gamle となる＜gammele）はノルド語共通で、ラテン語 hiems（冬）、サンスクリット語 himā-（冬、雪）と同根、すなわち「１冬過ぎた」「１歳の」から「老いた」となった。「行った」デ gik はging＞gink＞gikk＞gik の音韻変化を経た。「あちらに」ドhin, デ hen は語源も用法も同じである。「開けるために」デ at lukke op (cf. エlock), ドum aufzumachen. 「…するために」デ at, ド um...zu（前置詞「ために」の um は Kampf ums Leben 生存のための戦争、um Geld bitten お金のためにお願いする）。ド aufmachen（開ける）は zumachen（閉める）に対す。デ lukke は「閉める」(cf.ドschließen 閉める、aufschließen 開ける)

２．門を開けると、外に立っていたのは、ずぶ濡れになったお姫さまだったのです。

Det var en prinsesse, som stod udenfor. Men Gud hvor hun så ud af regnen og det onde vejr!（外に立っていたのは、お姫さまだったのです。しかしまあ、雨と悪天候のために、なんとひどい姿をしていたことでしょう！）

Draußen stand eine Prinzessin. Aber, du lieber Gott, wie sah sie aus von dem Regen und dem Unwetter!

デは「外に立っていたのは…だった」と強調構文になっているが、ドは「外には…が立っていた」となっている。しかし、draußen stand... の語順であるから、「外に立っていたのは…」とも考えられる。エは It was a princess who stood outside. なので、デと同じである。「外に」デ udenfor (ude-n-for) は indenfor（inde-n-for, 中に）に対立している。ド draußen（＜dar-aus-sen）は daraus とすれば「その中から」(from it, out of it）となる。drinnen（中に、inside）に対す。「お姫さま」はフランス語からの借用語だが、ドイツ語 Prinz-ess-in は女性語尾が二重に現れている。-ess はギリシア語、-in はラテン語起源である。Christ-ina, baller-ina, mar-ina（海の娘）、Ond-ine, Undine（波の娘、ラテン語 unda 波）。「おやまあ」という驚きの感嘆詞は「神」が出てくることが多い。デは Gud だけだが、ドは du lieber Gott（あなた神様）と丁寧だ。lieber はここでは「愛すべき」ではなく、lieber Vater, liebe Mutter と同じく「お父さま」「お母さま」にあたる。「なんとひどい姿を...」デ hvor hun så ud は「主語＋動詞」、ド wie sah sie aus は「動詞＋主語」。「彼女は…のように見えた」は動詞と接頭辞が共通している。英語は she looked out, she saw out...とは言わない。「悪天候」デは「形容詞＋名詞」だが、ド Unwetter は「接頭辞＋名詞」で、この Un- は Unmensch（悪人）、Untier（怪獣）と同じ。

3．ずぶ濡れのお姫さまは、「私は本当の姫です」とみずから名乗った。まさか、と思った王子の母（王妃）は、一粒のえんどう豆をベッドの下に置いて、その上に20枚のシーツと20枚の羽根ぶとんを重ね、その上にお姫さまが寝ることになった。翌朝、寝心地はいかがでしたか、と尋ねると、全然眠れなかったとお姫さまは答えた。

Om morgenen spurgte de hende, hvorledes hun havde sovet.（朝、人は彼女に尋ねた、寝心地はいかがでしたかと）

Am Morgen wurde sie gefragt, wie sie geschlafen habe.

「朝に」デは前置詞と定冠詞つき名詞（in the morning），ドも同じ。主文はデ「彼らは彼女に尋ねた」、ドは「彼女は尋ねられた」と受動文。「尋ねる」デ spørge は spor（足跡、ド Spur）から作られた動詞で、「足跡をたずねる」から「たずねる」の意味になった。ド fragen はゴート語 fraíhnan, 古代英語 frignan, 古代アイスランド語 fregna, 印欧語根*p[e]rek-（尋ねる、知る）、ラテン語 precari（頼む）。「どのように」デ hvorledes の-ledes は anderledes（他の方法で）に見える。ド wie は wer（だれが）、was（なにが）、wann（いつ）、wo（どこで）と同じく印欧疑問詞*kwi-, *kwo- に由来し、エ who, what, when, where に対応する。Old English では hw- の順序だった（k はゲルマン語では h になった）が、表記が wh- と逆になった。ドイツ語は hw- の h を表記しなくなった。デ hvem, hvad, hvor (når), hvor は h を保持している（発音はしないが）。「どのように彼女は眠ったか」デ... havde sovet は過去完了、ド... geschlafen habe は伝達の内容なので接続法を用い、テンスは現在完了になっている。「眠る」デ sove, ド schlafen のうち、デは印欧語的（サンスクリット語 svapna-, ギリシア語 hypnos, ラテン語 somnium）だが、ドはエ sleep と同源のみ。

“O, forskrækkeligt slet!” sagde prinsessen, “jeg har næsten ikke lukket mine øjne den hele nat! Gud ved, hvad der har været i sengen? Jeg har ligget på noget hårdt, så jeg er ganske brun og blå over hele min krop! Det er ganske forskrækkeligt!”（ひどい寝心地でしたわ、とお姫さまは言った。一晩中私は目をつぶることができませんでした。ベッドの中にいったい何があったのでしょう。私は何か固いものの上に寝たようです。ですから体中があざだらけになってしまいました。本当に恐ろしかったこと！）

“Oh, schrecklich schlecht!” sagte die Prinzessin. “Ich habe die ganze Nacht fast kein Auge zugetan! Gott weiß, was da im Bett gewesen ist? Ich habe auf etwas Hartem gelegen, so dass ich am ganzen Körper braun und blau bin! Es ist ganz schrecklich!”

「恐ろしくわるく（寝た）」デ forskrækkeligt slet, ド schrecklich schlecht は２語とも同じ語源で、「恐ろしく」のデは for- という接頭辞（ド ver-）で補強され、-t は中性形、すなわち副詞となっている。「わるく」slet, schlecht はエ slight（わずか）と同源。エ s- とド sch- は sleep：schlafen, snow：Schnee など規則的に対応する。stand：stand（立った）、speak：sprechen においては、つづり字は同じだが、ドイツ語は sch- と発音する（1400年ごろ南ドイツに始ま

り、徐々に北に広まった、前島儀一郎『英独比較文法』大学書林、1952、1987[4]。「ほとんど」デnæsten は「近い」(næ-) の最上級 (-st), -en は副詞語尾、ド fast は fest「固い」の副詞形 (fasto) より。形容詞は fasti から fest となった。「目をつぶった」デ mine øjne「私の目」(my eyes), ド kein Auge (いかなる目も…ない、no eye)。「つぶる、閉じる」デ lukke はlukke op (開ける)、ド zutun は auftun (開ける) に対す。ドの接頭辞 zu, auf はエ to, up に対応する。「いったい (何が)」は「神のみぞ知る」と表現する。「何が」デ hvad der 間接文で「何が」のように主語の場合は der を添える。「何を」ならば hvad だけでよい。ド was はそのような配慮は不要である。「あったのか」デの現在完了 har været ("has been") は "have" を助動詞にしているが、ド ist gewesen は "be" を助動詞にしている。「ベッド」デ seng はノルド語共通、ド Bett は西ゲルマン語共通。「横になった」デ har ligget の ligge は強変化動詞であるが、過去分詞が -t で弱変化の語尾になっている。過去は lå で強変化特有の語形をしている。ド gelegen は強変化特有の -n をもっている (エ been, given, gone, lain, taken)。「何か固いもの」noget hårdt, etwas Hartes の形容詞はデ・ドとも中性形 (-t, -es)。「だから」デ så, ド so dass. 「からだ」krop, Körper はともにラテン語 corpus からの借用だが、デは r の位置が変わっている (metathesis 音位転換)。ラテン語は中性名詞だが、ドイツ語は男性、デンマーク語は共性。「あざだらけ」brun og blå, braun und blau (褐色と青) は肌の傷と血管の色からきているが、英語では black and blue, フランス語では des bleus et des noirs (青と黒) という。いずれの場合も頭韻 (alliteration) を踏んでいる。

こんなに肌の敏感なお姫さまは、本当のお姫さま以外にはありえない。そこで王子はこのお姫さまと結婚しました。このお姫さまはアンデルセン自身を表していると言われる。アンデルセンは感受性がこまやかで、常人の何倍も深く広く感じ取ることができた。

4.「人魚姫」(1837) はアンデルセンの第2の恋 (相手は Louise Collin) の失恋から生まれた名作である。王子に恋をした人魚姫は魔女から人間の足をもらったが、その代償に人魚王国で最も美しいといわれた声を失った。王子の住むお城の浜辺に打ち上げられた人魚姫は「しゃべれない、話す目をもった拾い子」(det stumme hittebarn med talende øjne, das stumme Findelkind mit sprechenden Augen, the dumb foundling with speaking eyes) と可愛いがられて、王子のお城で暮らす。

Dag for dag blev hun prinsen kærere, han holdt af hende, som man kan holde af et godt, kært barn, men at gøre hende til sin dronning faldt ham slet ikke ind, og hans kone måtte hun blive, ellers fik hun ingen udødelig sjæl, men ville på hans bryllupsmorgen blive skum på søen. (日に日に彼女は王子にとっていとしい人になっていった。彼は彼女を好きだったが、それは善良なかわいい子なら誰でも好きになるような、愛し方だった。だから彼女を自分の王妃にすることなど夢にも思わなかった。だが、彼女のほうではどうしても彼の妻にならなければならなかった。そうでなければ、彼女は不死の魂を手に入れることができず、王子が他の女性と

結婚した場合には、その翌朝、海の泡になってしまわねばならなかったから）

Von Tag zu Tag wurde sie dem Prinzen lieber, er hatte sie lieb, wie man ein gutes, liebes Kind liebhat, aber sie zu seiner Königin zu machen, kam ihm gar nicht in den Sinn, und seine Frau mußte sie werden, sonst erhielt sie keine unsterbliche Seele, sondern würde an seinem Hochzeitsmorgen zu Schaum auf dem Meere werden.

「日に日に」デ dag for dag, ド von Tag zu Tag（デと同じく Tag für Tag ともいう）、エ day by day, day after day. このような対句の場合は冠詞を用いない。「王子にとって」デ prinsen は格語尾がなく、位置によってのみ与格であると判断される。ド dem Prinzen は明確に与格。エ to the prince. 「よりいとしい」デ kærere, ド lieber, エ dearer. デ kære はフランス語 cher と同様、ラテン語 cārus より。「好きである」デ holde af, ド liebhaben（愛するものとしてもつ）、エ be fond of. 「彼女を王妃にする」デ gøre hende til sin dronning, ド sie zu seiner Königin machen, エ make her his queen.「夢にも思わなかった」デ faldt ham slet ikke ind（全然彼に陥らなかった、思い浮かばなかった）、ド kam ihm gar nicht in den Sinn（全然彼に考えの中に来なかった）、エ it never occurred to him. 「そうでなければ」デ ellers (eller "or", -s は副詞語尾)、ド sonst, エ otherwise. 「手に入れることはできないだろう」デ fik ingen..., ド erhielt keine..., エ would not find... エのみが接続法（条件法）を用いている。原文 fik は ville få を用いるべきであるが、過去形で接続法現在の意味を表している。ドも同様。「不死の」デ udødelig, ド unsterblich, エ immortal. エのみラテン語からの借用語（im-mortalis）、dø（死ぬ）はノルド語特有で、ヴァイキング時代にデンマーク語から英語に入った（die）。ド sterben は Old English steorfan（死ぬ）だが、エ starve は意味が「餓死する」に縮小してしまった。「泡」デ skum, ド Schaum. sk＝sch の例：skinne＝scheinen（照らす）、sko＝Schuh（靴）、skam＝Scham（恥）。「…になるだろう」デ ville blive, ド würde werden, エ would become は 3 言語とも接続法を用いている。

5．"Holder du ikke mest af mig blandt dem alle sammen?" syntes den lille havfrues øjne at sige, når han tog hende i sine arme og kyssede hendes smukke pande.（あなたはほかのだれよりも私を愛しているのではありませんか、と人魚姫の目が言っているように見えた、彼が彼女を腕に抱いて彼女の美しいひたいにキスをするときにはいつも）

"Hast du mich nicht von allen am liebsten?" schienen die Augen der kleinen Meerjungfrau zu sagen, wenn er sie in seine Arme nahm und sie auf ihre schöne Stirn küßte.

「ほかのだれよりも愛している」デ holder mest af...blandt dem alle sammen（彼ら全員の間で一番愛している）、ド von allen am liebsten haben（すべての人のうちで最も愛する者としてもつ）。「…のように見えた」デ syntes（＜synes）-s は「自分に」（古代ノルド語 sér, ド sich）、ド schienen（＜scheinen，輝く、見える）。「目」デ øjne（複数）、ド Augen（ラテン語 oculus, ロシア語 oko）。「…するときはいつも」デ når（＜hvénær どのくらい近いか）、ド wenn. デ

når は「いつ？」の意味もあるが、ドの「いつ？」は wann. エ whenは「いつ？」と「…するとき」の意味あり。ド「とる」デ tage（エ take），ド nehmen. 英語の take はデンマークのヴァイキングが英国にもたらしたもの。「…にキスする」デ kysse, ド auf ... küssen.「美しい」デ smuk （cf.ド Schmuck 装飾)、ド schön.「ひたい」デ pande（エ pan 平なべ)、ド Stirn（ラ sternere 広がる、広げる)。

6．"Jo, du er mig kærest," sagde prinsen, "thi du har det bedste hjerte af dem alle, du er mig mest hengiven, og du ligner en ung pige, jeg engang så, men vistnok aldrig mere finder."（そうだよ、君はぼくにとって最もいとしい人だ、と王子は言った。だって、君はほかのだれよりもやさしい心をもっている、君はだれよりもぼくに尽くしてくれる、それに君はぼくが昔会ったことのある、ある若い娘に似ている。彼女にはおそらくもう会えないだろうが)

"Doch, du bist mir am liebsten", sagte der Prinz, "denn du hast das beste Herz von allen, du bist mir am meisten zugetan, und du gleichst einem jungen Mädchen, das ich einstmals sah, aber sicher nie mehr wiederfinde."

「…ではないか」という否定の疑問に「そうだ」と肯定で答える場合、デ jo, ド doch（フ si)。「君は…だ」デ er は *es-, ド bist は語根 *be- と *es- が混交（contaminate）した形。「言った」デ sagde [sa:]（-gde はサイレント、不定詞 sige）英語は said [sed] と [-d]の発音を残している。ド sagte（弱変化)。「というのは」デ thi は *that の instrumental（Old English thy)「そのために」(why 何のために)、ド denn（dann と同語)。「最良の心」とは自分のことよりも相手を思いやる心のことである。「心」デ hjerte, ド Herz は印欧語的（cord-, kardia, ロ serd-ce)。「私にとって」デ mig は形態的には対格（ゴート語 mik), ド mir は与格。「似ている」デ ligne（<形容詞 lig 似た）lig＝エ like, ド gleichen も 形容詞 gleich（似た、等しい）より。ド gleich＝エ like のように、語頭の g の有無は Glück＝luck, genug＝enough などあり。「少女」デ pige, ド Mädchen （cf.エ maid, maiden)。「私が会った少女」デ en pige, jeg så, ド ein Mädchen, das ich sah. デは目的格の関係代名詞が省略されている。デ vistnok「おそらく」と原文にあるが、ドは sicher「たしかに」と訳している。これは訳者の好みであろう。エは no doubt (疑いもなく、語意が弱まって、おそらく)。「二度と会えないだろう」デ aldrig mere finder, ド nie mehr wiederfinde（ドイツ語のほうが wieder とある分だけ丁寧な表現)。aldrig [発音 aldri] は「一生涯（aldri）ない（-g)」で -i は与格。nie も ne-aiwで「一生涯…ない」。

7．だが、王子は隣国の姫とお見合いをすることになり、その姫が自分を海岸で発見した人であることを知った。婚約が成立し、結婚式が挙げられた。人魚姫は、明朝、海の泡となって消えねばならない。

Det var den sidste aften, hun så ham, for hvem hun havde forladt sin slægt og sit hjem, givet sin dejlige stemme og daglig lidt uendelige kvaler, uden at han havde tanke derom.（人魚姫が王子を見ることのできる最後の晩であった。彼のために家族と郷里を捨てて、自分の美しい声

も失い、毎日、限りない苦痛に耐えてきたのに、彼のほうでは、そのようなことは夢にも考えたことはなかった）

Es war der letzte Abend, dass sie ihn sah, um dessentwillen sie ihre Familie und ihre Heimat verlassen hatte, ihre wunderbare Stimme hergegeben und täglich unendliche Qualen erduldet hatte, ohne dass er auch nur mit einem Gedanken daran gedacht hätte.

ドイツ語のほうが正確に１行長い。その理由は１行目に関しては「彼を見る最後の晩」の関係副詞がデンマーク語では省略されていること、「その人のために」がデ for hvem に対しドは um dessentwillen（“for whose sake”）と長い。デ for hvem（“for whom”）は古風なデンマーク語で、口語では som...for を用いる。疑問代名詞由来の関係代名詞は英語ではごく普通に用いるが、デンマーク語では19世紀までの文体である。「…する人は誰でも」のようなことわざには頻繁に出て来る。「家族と郷里を捨てた」の「捨てた」がデは givet だが、ドは hergegeben,「耐えた」もデ lidt だが、ド erduldet,「考えた」もデ havde tanke derom（それについて考えた）に対して、ド auch nur mit einem Gedanken daran gedacht hatte（それについて一つさえも考えなかった）となっている。別のドイツ語訳（H. C. Andersen, Gesammelte Märchen. Manesse-Bibliothek der Weltliteratur, Zürich, ca.1960）では um dessentwillen が für den となっている。「彼に会える最後の晩」der letzte Abend, dass sie ihn sah の接続詞が der letzte Abend, an dem sie ihn sah と関係文になっている。「声を捨てた」の「捨てた」が hergegeben の代わりに hingegeben となっている。her は「向こうのほうから」、hin は「向こうのほうへ」で方向が逆である（woher どこから、wohin どこへ）。原文のデンマーク語は givet（与えた）で方向は表現されていない。「それについて考えた」は es mit einem Gedanken ahnte（それを考えでもって予感した）となっている。

８．最後の晩に人魚姫は王子の前で力の限りを尽くして美しい踊りを舞った。彼女の踊りは宙を舞うような踊りで、お城の中では評判だった。しかし彼女は15歳で初めて二本足で立ったので、人間と異なり、地面を踏むたびに、針で刺されるように足が痛かった。

Aldrig havde hun danset så herligt; det skar som skarpe knive i de fine fødder, men hun følte det ikke; det skar hende smertigere i hjertet.（彼女は今までにないほど美しく踊ってみせた。それは鋭いナイフのようにか弱い足を刺した。しかし彼女はそれを感じなかった。心の中のほうがいっそう痛く切り込んだ）

Niemals hatte sie so herrlich getanzt. Es schnitt ihr wie mit scharfen Messern in die feinen Füße, aber sie fühlte es nicht; es schnitt ihr schmerzlicher ins Herz.

「決して…なかった」はどちらも語頭に来ている。「切る」デ skære はド scheren（切る、剃る）、Schere（はさみ）と同源、ド schneiden は関連語に Schneider（仕立屋）、Schnitzel（肉の薄切れ、カツレツ）がある。ゲルマン語共通で、Old English にはあったが、その後、Middle English の別語 cutten から今日の cut になった。「ナイフ」kniv はノルド語共通で、

英語にも入った。ド Messer は *mati-sahs（食べ物を切るもの）で、オランダ語 mes から日本語にも入り「メスを入れる」は「実体を明らかにする」の意味に用いられる。「鋭いナイフのように」は、ドは「鋭いナイフでもって（mit）のように」となっている。デは「鋭いナイフが（刺す）ように」である。

9．ダンスが終わり、夜もふけて、甲板が静かになったとき、人魚姫の姉たちが魔法のナイフをもってきて、これで王子の心臓を刺せば、もとの人魚に戻れると言ってくれた。

Før sol står op, må du stikke den i prinsens hjerte, og når da hans varme blod stanker på dine fødder, da vokser de sammen til en fiskehale, og du bliver en havfrue igen.（太陽が昇る前に、あなたはそれを王子の心臓に刺さねばなりません。そして、彼の暖かい血があなたの足にふりかかると、足は魚の尻尾に生え変わります。そしてあなたはまた人魚に戻れます）

Ehe die Sonne aufgeht, mußt du es dem Prinzen ins Herz stoßen, und wenn dann sein warmes Blut auf deine Füße spritzt, dann wachsen sie zu einem Fischschwanz zusammen, und du wirst wieder Meerjungfrau.

「…する前に」デ før（ド vor, エ before）、ド ehe（cf. エ ere はその比較級、ド erst「第 1 の、最初の」は最上級）。「太陽」は唯一無二のはずなのに、デ sol は定冠詞なし、ド die Sonne は定冠詞あり。「昇る」デ står op（上に立つ）、ド aufgeht（上に行く、“go up”）。ドはここでは従属文なので、aufgeht となっているが、主文の場合は geht auf のように接頭辞が分離して後ろに来る。「王子の心臓に」デは属格だが、ドは dem Prinzen ins Herz で所有の与格（possessive dative）が用いられる。「魚の尻尾」デ fisk-e-hale はつなぎの母音があるが、ド Fisch-schwanz はゼロである。-e- はデ børn-e-have（子供の庭、幼稚園）、barn-e-barn（子供の子供、孫）、barn-e-snak（子供のおしゃべり、アンデルセン童話の作品名、ド Kindergeschwätz）にも見える。

しかし、人魚姫は愛する王子を殺すことができず、ナイフを海に捨て、自分で海に飛び込み、死を選んだ。

10.「ある母親の物語」（Historien om en mor, Die Geschichte von einer Mutter）は死神が持ち去った子供を返してもらうために、胸から血を流し、両目を失って死神の後を追いかける母親の物語である。インドで特に好評だったといわれる。

母親は夜の闇に尋ねた。死神がどの道を行ったか教えてください。「その前に、あなたの子守唄を全部歌ってください。そうしたら、教えてあげましょう」。教えられた道を行くと、森の中で道が二つに分かれていた。するとそこにイバラのやぶが葉も花もつけずに立っていた。「あなたの胸で私を暖めてくれれば、どっちの道を行ったか教えてあげよう」。母親はイバラをしっかりと胸に押し当てると、とげがささって血が大きなしずくになって流れた。その代わり、イバラは緑の葉を出して、寒い冬の夜に花を咲かせた。それほど、母親の胸は暖かかった。教えられた道を行くと、大きな湖に出た。そこには橋もボートもなかった。湖が

言った。

"Jeg holder af at samle på perler, og dine øjne er de to klareste, jeg har set; vil du græde dem ud til mig, så skal jeg bære dig over til det store drivhus, hvor Døden bor og passer blomster og træer; hver af dem er et menneskeliv!"（私は真珠を集めるのが好きなのだ。あなたの目は私がいままで見たうちで最も澄んでいる真珠だ。もしあなたが泣いて、その目を流し出して私にくれるなら、あなたを向こうの大きな温室まで運んであげよう。そこに死神が住んでいて、花や木を育てている。その花や木の一つ一つが人間の命なのだ）

"Ich sammle gern Perlen, und deine Augen sind die beiden hellsten, die ich gesehen habe, willst du sie dir für mich ausweinen, dann trage ich dich zu dem großen Treibhaus, wo der Tod wohnt und die Blumen und Bäume pflegt; jedes von ihnen ist ein Menschenleben!"

ドイツ語のほうが少し長い。句読点が若干異なるところがある。「…が好きだ」デ holder af は「子供がすき、おばあさんがすき」のように名詞とともに用いられるが、このように動詞とともにも用いられる。ドは gern（好んで）と副詞を用いる。ich reise gern（私は旅行がすき）、ich lese gern（読書がすき）のように。「真珠を集める」デ samle på perler, ド Perlen sammeln（前置詞なし）。デ samle på frimærker（切手を集める）、samle materiale til en bog（本の資料を集める）のように他動詞的にも用いる。「真珠」はラテン語 perna より。ギリシア語の「真珠」は margarítēs で、女子名 Margaret の語源になった。「澄んだ」デ klar はラテン語 clārus より、ド hell は印欧語根*kel-（叫ぶ、ラテン語 clāmāre 叫ぶ、cf. イタリア語 mi chiamo... 私の名は…です、clārus 明るい、有名な）より。「私が見た真珠」デ perler, jeg har set は関係代名詞が省略されている。ド Perlen, die ich gesehen habe は関係代名詞で結ばれている。「もし泣いてくれるならば」デ vil du græde, ド willst du weinen はともに「動詞＋主語」の語順で条件文を表し、主文とのつなぎに接続詞デ så, ド dann を用いている。「泣きはらして目を流し出す」デ græde øjne ud, ド Augen ausweinen は副詞「そとに」が表現の妙味を出している。「運ぶ」デ bære は印欧語根 *bher-（bhár-ā-mi, phérô, ferō），ド tragen はゲルマン語共通、エ draw. 「温室」デ drivhus, ド Treibhaus は「栽培の家」、エ greenhouse（緑の家）という。「栽培する、育てる、世話する」デ passe はフランス語 passer（適合させる→世話する）から、ド pflegen はエ play（遊ぶ）と同源。「その一つ一つ」デ hver af dem, ド jedes von ihnen「誰」（hver）が不定代名詞「誰か」に用いられることはギリシア語にもある。「誰か」から「誰でも、おのおの」になった。jeder は io（つねに）＋gi（一緒に、cf. Gefährte 同伴者、Geselle 広間をともにする者、仲間、Gebirge 山脈）＋hwedar（二人のうちの誰か）、つねに二人とも。

## デンマーク語索引（332語）

**af** [前] …の、…のため。en af dem 彼らの一人；af regnen 雨のために

**aften** [共、複 -er] 夕方、晩 [Abend, evening]

**aldrig** [発音aldri] 決して…ない [aldri一生（時の与格）、g(i) 否定]

**alle** [代、複数] すべての人、すべての物；alle sammen 全部一緒に

**anden** [発音anən] 第２の、別の [ander, other]

**anderledes** [発音anəle:ðəs] [副] 別の方法で [otherwise, auf andere Weise]

**arm** [共、複 -e] 腕。tog hende i sine arme 彼女を腕に抱いた

**at** [不定詞の前に] at lukke 閉めるために、at lukke op 開けるために

**banke** (bankede, banket) [動] ノックする（på døren ドアを）(klopfen)

**barn** [中、複 børn] 子供 [生まれた者、cf. I was born；ド Kind＜*gen-tó-m 生まれた者]

**barnebarn** [中] 孫（子供の子供）

**barnesnak** [共] 子供のおしゃべり（アンデルセン童話の一つ）

**bedst** [発音 best；形、副] 最良の、最良に [bed-st；ゴート語 bat-ist-s]

**begynde** [発音begønə ] (begyndte, begyndt) 始まる、始める

**blive** (blev, blevet) …になる [語源的にはド bleiben]

**blandt** [前] 間に [原義：混ざって、cf.エ blend]

**blod** [中] 血 [Blut, blood]

**blomst** [共、複 -er] 花 [Blume, bloom, blossom]

**blå** [形] 青い。brun og blå あざだらけになって

**bo** (bor, boede, boet) 住む [エ be と同根]

**bog** [共、複 bøger, ドの複数 Bücher もウムラウトしている] 本 [Buch, book]

**bort** [副] 向こうへ（行く）。「向こうに（いる）」は borte [＜braut 道＜brjóta 壊す]

**bringe** (bragte, bragt) もってくる。-s もってこられる、運ばれる

**bror** [共、複 brødre] 兄弟 [Bruder, brother]

**brun** [形] 褐色の。brun og blå あざだらけになって

**bryllupsmorgen** [共] 結婚式の翌朝 [bryllup 結婚＜bruð-laup 花嫁を連れて走ること]

**brødre** (bror の複数)

**by** [共、複 -er] 町 [Derby, Rugby, Whitby など英国地名に残る]

**bære** (bar, båret) 運ぶ [I was born の born と同根だが、その意味には jeg er født]

**børnehave** [共、複 -r] 幼稚園 [子供たちの庭]

**da** [副] そのとき、[接] …したとき、…なので。da kom han そのとき彼が来た。da han kom 彼が来たとき、彼が来たので

**dag** [共、複 -e] 日。dag for dag 日に日に、来る日も来る日も [Tag, day]

**daglig** [形] 毎日の、毎日 [täglich, daily]

**dame** [共、複 -r] 婦人、貴婦人 [フ (ma)dame]

**Danmark** デンマーク [Dan-mark デーン人の国；mark は国境、野原、cf.ラ margo]

**dansk** [名、形] デンマーク語、デンマークの

**danse** (dansede, danset) 踊る [フ danser]

**de** [代] 彼ら [they]

**dejlig** [形] 美しい、すばらしい [<dege 繁栄]

**dem** [代] 彼らに、彼らを、それらを [them]

**denne** (dette, disse) [代] この

**deres** [代] 彼らの

**derom** [副] それについて [前半 der- はド dar-um それゆえに、エ there-fore 参照]

**det** [代] それ、これ。det er mig それは私です；det er min bog これは私の本です。

**dig** [代] 君に、君を [dir, dich, thee]

**din** [代] (dit, dine) 君の [thine, dein]

**dit** [代] din の中性。dit hus 君の家

**dog** [接、副] ぜひ、とにかく [ドdoch]

**drikke** (drak, drukket) 飲む [trinken, drink]

**drive** (drev, drevet) 駆り立てる、栽培する [treiben, drive]

**drivhus** [中、複 -e] 温室 [栽培の家] (Treibhaus, greenhouse)

**dronning** [共、複 -er] 女王（ノルド語共通）

**du** [代] 君は [du, thou]

**dø** (døde, død) 死ぬ [エ die に借用された]

**Døden** [共] 死神 [død「死」に定冠詞がついたもの；der Tod, the Death]

**ellers** [副] そうでなければ [eller あるいは, -s は副詞語尾]

**elske** (elskede, elsket) 愛する。-s 愛される

**en** [数、不定冠詞、中性 et] 1。en bog “a book”, et hus “a house”

**-ene**（複数定冠詞）folkene “the people”, husene “the houses”

**eneste** [形] 唯一の [en に最上級の語尾がついた]

**engang** [副] むかし、一度 [gang 度、倍]

**englænder** [共、複 -e] 英国人。**-inde** [複 -r] 英国女性

**enogtyve** [数] 21 [en-og-tyve “ein-und-zwanzig”]

**er** [動] (I am, you are, he is...) [*es-]

**-erne**（複数定冠詞）damerne “the ladies”, bøgerne “the books”

**et** (en の中性) et hus “a house”

**falde** (faldt, faldet) 落ちる、倒れる。falde ind 思いつく。faldne soldater “fallen soldiers” のように、形容詞に用いた過去分詞は falden を用いる。[fallen, fall]

**far**（複fædre）[共] 父 [Vater, father]

**farfar** [共] 祖父、父方の祖父 [父の父]

**farvel** さようなら [元気で行きなさい；far（fare 行く、命令形）vel（元気で), cf.farewell]

**fik** (få の過去) [fik＜fikk＜fink＜fing（ド fing＜fangen)]

**fin** (fint, fine) [形] 繊細な fine fødder 華奢（きゃしゃ）な足 [フ]

**finde** (fandt, fundet) 見つける。fundne ting 発見された物（複数）[finden, find]

**firs** [数] 80 [fir-sinds-tyve 4×20]

**fod** [共、複 fødder] 足 [Fuss, foot]

**folk** [中] 人々 [Volk, folk]

**folkene** “the people”

**for hvem** “for whom” その人のために（für den）

**forskrækkelig** [形] 恐るべき [schrecklich]

**forlade** (forlod, forladet) 捨てる（家族を、故郷を）[verlassen]

**forsvinde** (forsvandt, forsvundet) 消える。den forsvundne bil 消えた車 [verschwinden]

**frimærke** [中、複 -r] 切手 [自由に（郵便が通過できるための）しるし]

**frue** [共、複 -r] 婦人 [Frau]

**frygtelig** [形] 恐ろしい [fürchterlich, frightful]

**fødder** (fodの複数)

**føle** (følte, følt) 感じる [fühlen, feel]

**før** [接] する前に。før han kommer 彼が来る前に [vor, bevor, before]

**første** [形] 最初の [語源的にFürst 君主, first]

**gammel** (gammelt, gamle) [形] 古い、年老いた [原義：冬を越した；ラ hiems 冬]

**gang** [共、複 -e] 回（1回、2回)、倍。to gange 2回 [歩くこと]

**ganske** [副] まったく [ganz]

**gik** (gåの過去)

**give** (gav, givet) 与える [geben, give]

**glæde sig** (glædede, glædet) 喜ぶ。jeg glæder mig 私は嬉しい [glad]

**god** (godt, gode) [形] よい。godt kært barn 善良な、かわいい子 [gut, good]

**godt** [副] おいしく。man spiser godt her ここは食事がおいしい

**græde ud** (græd, grædt) 泣きはらす、泣いて（目を）流し出す

**Gud** [共、複 -er] 神。Gud hvor いったいどこに [Gott, God]

**gøre** (gør, gjorde, gjort) する、行う [原義：準備する（cf.ド gar 準備できた、煮えた)]

**gå** (gik, gået) 行く、歩く [gehen, go]

**ham** [代] 彼に、彼を [him]

**han** [代] 彼は [he]

**hans** [代] 彼の（不変化）hans bog, hans hus, hans huse 彼の本、家、家々

**halvfems** [数] 90 (halv-fem-sinds-tyve 4.5×20)

**halvfjerds** [数] 70 (halv-fire-sinds-tyve 3.5×20)

**halvtreds** [数] 50 (halv-tre-sinds-tyve 2.5×20)

**hav** [中、複 -e] 海。havet "the sea"

**havde** (have の過去)

**have** (havde, haft) もっている [haben, have]

**havfolk** [中] 海の人々、人魚族

**havfrue** [共、複 -r] 人魚の女性。den lille havfrue 人魚姫

**havkonge** [共、複 -r] 海の王、人魚の王

**havprinsesse** [共、複 -r] 人魚姫

**hel** [形] 全体の、全部の。den hele nat 一晩中 [エ whole]

**hen** [副] 向こうへ。gik hen（彼は）去った [ド hin]

**hendes** [代] 彼女の（不変化）

**hengiven** [形] 献身的な [given は古形の過去分詞]

**hente** (hentede, hentet) もって来る。-s もって来られる、(取りに来る)

**herligt** [副] すばらしく、立派に [herrlich]

**historie** [共、複 -r] 歴史、物語 [ド Geschichte にもこの 2 つの意味がある]

**hittebarn** [中、複 -børn] 拾い子（捨て子）(Findelkind, foundling) [hitte 見つける]

**hjem** [中、副] 家、家へ。mit hjem 私の故郷；gå hjem 家に帰る [Heim, home]

**hjerte** [中、複 -r] 心、心臓 [Herz, heart, ラ cord-]

**hjælpe** (hjalp, hjulpet) 助ける [helfen, help]

**holde af** (holdt, holdt) …が好きである [halten, hold]

**hun** [代] 彼女は

**hvad** [代] 何が、何を [was, what；ラ quid, quod]

**hvad der** (間接文で) 何が（主語）

**hvad for en (et)** [代] どんな種類の。hvad for en bog どんな本 [was für ein]

**hvem** [代] 誰が、誰に、誰を [wem, whom 与格形が主語にも目的語にも用いられる]

**hver af dem** 彼らの誰もが [hver "every"]

**hvo** [古] 誰が（hvem を用いる）[who]

**hvor** [副] どこに、いかに [wo, wie, where, how]

**hvorledes** [副] いかにして、どのような方法で [-ledes：ligeledes 似たような方法で、同様]

**hvornår** [副] いつ？ (wann, when)

**hånd** [共、複 hænder] 手 [Hand, hand]

**hård** [形] 固い [hart, hard]

**i** [前] …の中で [in；ノルド語では -n が消失する：nine, ten＝ni, ti]

**I** [代] 君たちは[ihr, ye]

**igen** [副] ふたたび [i＋gen（原義：出会い), cf, entgegen]

**igår** [副] 昨日 [gestern, yesterday, ラ heri 昨日、hesternus 昨日の]

**ikke** [否定] han kommer ikke 彼は来ない；jeg har ikke nogen penge 私はお金をもっていない [eitt-gi 一つも…ない]

**imorgen** [副] 明日 [morgen, tomorrow]

**ind, inde** [副] 中に。han går ind 彼は中へ入って行く；han er inde 彼は中にいる

**indenfor** [前、副] …の中に、中へ

**indgang** [共、複 -e] 入口 [Eingang]

**ingen** [代] 誰も…ない。ingen penge, ingen tid “no money, no time”

**Island** アイスランド [氷の国]

**japaner** [共、複 -e] 日本人；-inde [複 -r] 日本人女性 [-inde は女性語尾]

**japansk** [名、形] 日本語、日本の

**jeg** [代] 私は [ich, I, ラ ego]

**jer** [代] 君たちに、君たちを [euch, you]

**jeres** [代] 君たちの [euer, your]

**jo** [副] 否定の疑問に対して肯定の返事をする場合。そうだよ（ド doch, フ si）

**kan** [助動詞] できる。jeg kan læse 私は読める [können, can]

**kende** (kendte, kendt) 知っている。jeg kender ham 私は彼を知っている [kennen, know]

**klar** [形] 澄んだ、明るい [klar, clear；ラ clārus]

**kniv** [共、複 -e] ナイフ [knife；フランス語 canif に借用される；ドは Messer]

**komme** (kom, kommet) 来る [kommen, come；ラ venio]

**kone** [共、複 -r] 妻 [語源的に queen, ギ gynê]

**konge** [共、複 -r] 王 [König, king]

**kongelig** [形] 王の [königlich, kingly]

**krop** [共、複 kroppe] 身体 [＜ラ corpus]

**kval** [共、複 -er] 苦しみ、苦痛 [Qual]

**kunne** (kan, kunne, kunnet) できる、できた、できるだろう（接続法）[können, can]

**kysse** (kyssede, kysset) キスする [küssen, kiss]

**kære** [形] 親愛な。-re より親愛な [＜ラ cārus]

**købe** (købte, købt) 買う [kaufen, cheap, chapman＜ラ caupō 酒屋]

**København** コペンハーゲン [商人の港；ラテン語で Hafnia 港と言った]

**land** [中、複 -e] 国 [Land, land]

**lang** (længere, længst) [形] 長い [lang, long]

**langt** [副] 遠くに、はるかに [langの中性形]

**lave** (lavede, lavet) 作る [＜lage（正しい位置に）置く]

**le** (lo, let) 笑う [lachen, laugh]

**leve** (levede, levet) 生きる [leben, live]

**lide** (led, lidt) 悩む [leiden]

**lidt** (lide の過去分詞)

**lig** [形] 似た [gleich, like]

**ligge** (lå, ligget) 横たわっている、位置している [liegen, lie]

**ligne** (lignede, lignet) 似る [＜lig]

**lille** [形、複数 små] 小さな。en lille bog 1 冊の小さな本、to små bøger 2 冊の小さな本

**lo** (leの過去)

**lukke** (lukkede, lukket) 閉める [cf.lock]

**lukke op** 開ける [op cf. aufmachen, auftun, aufschließen]

**lyn** [中、複 lyn] 電光、稲光。lyntog 特急列車

**lyne** (lynede, lynet) det lyner 稲光がする (es blitzt, lightning flashes)

**lægge** (lagde, lagt) 置く。-s 置かれる [legen, lay]

**læse** (læste, læst) 読む [lesen]

**lære** (lærte, lært) 学ぶ。lære dansk デンマーク語を学ぶ [lernen, learn, lore]

**mad** [共、複ナシ] 食事 [meat と同源；ゴート語 matjan 食べる]

**man** [代] 人は（一般人称）。man siger 人は言う、…だそうだ [man]

**mand** [共、複mænd] 男、夫 [Mann, man]

**mange** [形] 多くの。mange bøger たくさんの本、mange gange 何度も

**materiale** [中、複 -r] 材料 [ラ]

**med** [前] …と一緒に、でもって [mit]

**men** [接] しかし（aber, but）

**menneske** [中、複 -r] 人間 [Mensch、原義：人間の]

**menneskeliv** [中、複 -liv] 人間の生命 [Menschenleben]

**mere** [形、副] より多くの、さらに。aldrig mere もはや決して…ない [mehr, more]

**mest** [形、副] 最も多い、最も多く [meist, most]

**mig** [代] 私に、私を [mich, mir, me]

**min** (mit, mine) [代] 私の [mein, my, ラ meus]

**mindst** [形、副] 最も少ない、最も少なく [minus, minimum]

**morfar** [共、複 -fædre] 祖父、母方の祖父、母の父

**morgen** [共、複 -er] 朝。om morgenen朝に [Morgen, morning]

**mormor** [共、複 -mødre] 祖母、母方の祖母、母の母

**mænd** (mand の複数)

**mændene** "the men"

**måtte** (må, måtte, måttet) [助動詞] ねばならない [müssen, must]

**nat** [共；複 nætter] 夜 [Nacht, night；ラ nox]

**ned** [副] 下へ [nieder, beneath]

**nej** [副] いいえ [nein, no]

**noget hårdt** 何か固いもの（etwas Hartes, something hard）

**næsten** [副] ほとんど (beinahe, nearly) [原義：最も近く、-en は副詞]

**når** [副] いつ；[接] …するときに [near と同源]

**og** [接] そして [ド auch と同源]

**om** [前] …について、…のまわりに [um]

**ond** [形] 悪い。ondt vejr, det onde vejr 悪い天気（Unwetter）

**os** [代] われわれに、われわれを [uns, us]

**over** [前] …の上に、…を越えて [über, over]

**pande** [共、複 -r] ひたい（Stirn, forehead）[pan 平たいなべ]

**passe** (passede, passet) 世話をする、栽培する [＜フ]

**penge** （複数扱い）お金。mange penge たくさんのお金 [Pfennig, penny]

**perle** [共、複 -r] 真珠 [＜ラ]

**pige** [共、複 -r] 少女

**port** [共、複 -e] 門（Tor, gate）[ラ porta]

**på** [前] …の上に。på hotel ホテルで、på restaurant レストランで [up＋on]

**på gensyn** さようなら（再会を期して）[gen ふたたび、syn 見ること]

**regn** [共、複ナシ] 雨 [Regen, rain]

**rejse** (rejste, rejst) 旅行する [reisen；語源的に rise]

**restaurant** [共、複 -er] レストラン [＜フ]

**sagde** (sige の過去)

**samle** (samlede, samlet) 集める。samle på frimærker 切手を集める [sammeln]

**samme** [形] 同じ [same]

**sammen** [副] 一緒に [zusammen]

**se** (så, set) 見る。se ud …のように見える (aussehen, look) [sehen, see]

**seks** [数] 6 [sechs, six]

**seng** [共、複 -e] ベッド（ノルド語共通）

**set** (se の過去分詞)

**sidste** [形] 最後の [síð（遅く）の最上級]

**sige** (sagde, sagt) 言う [sagen, say]

**sin** (sit, sine) [代] 彼の、自分の [sein, ラ suus]

**sjæl** [共、複 -e] 魂 [Seele, soul]

**skal** (skulle の現在)

**skam** [共、複ナシ] 恥 [Scham, shame]

**skar** (skære の過去)

**skarp** [形] 鋭い [scharf, sharp]

**skinne** (skinnede, skinnet) 輝く [scheinen, shine]

**sko** [共、複も同じ] 靴 [Schuh, shoe]

**skrive** (skrev, skrevet) 書く。den skrevne bog 書かれた本 [schreiben；＜ラ scrībere]

**skum** [発音 sgom] [中、複ナシ] 泡 [Schaum]

**skylle** (skyllede, skyllet) 洗う、流れる（spülen）

**slet** [形、副] 悪い、少しも。slet ikke 全然…でない [schlecht, slight（わずか）]

**slægt** [共、複 -er] 家族、一族 [Geschlecht；slå 打つ、烙印を押す（家畜に）]

**smertigere** [副] より痛く、より苦痛に [schmerzlicher]

**smile** (smilede, smilet) ほほえむ [smile]

**smuk** [発音 smog] (smukkere, smukkest) [形] 美しい [ド Schmuck 装飾]

**smukt** [副] 美しく。han spiller smukt 彼は美しく演奏する

**små** (lilleの複数) [schmal, small]

**sol** [共、複 -e] 太陽 [ラ sol]

**solgt** (sælgeの過去分詞)

**som** [関係代名詞] huset som jeg købte 私が買った家、huset, som jeg bor i 私が住んでいる家；[接] …のように。som man vil 好きなように [same, some, *sem- 1]

**sove** (sov, sovet) 寝る、眠る [ラ somnus, ギ hypnos, サ svápna-]

**spille** (spillede, spillet) 演奏する（遊ぶは lege）。spille smukt 上手に演奏する

**spiller** [共、複 -e] 演奏家；spillerinde [複 -r] 女性演奏家 [Spieler]

**spise** (spiste, spist) 食べる [speisen＜ラ expensa 贅沢な支出、贅沢]

**spurgte** (spørgeの過去)

**spørge** (spurgte, spurgt) たずねる [<spor 足跡]

**stemme** [共、複 -r] 声 [ド Stimme]

**stikke** (stak, stukket) 刺す [stechen, stick]

**stod** (stå の過去)

**stor** (større, størst) [形] 大きい（ノルド語共通）

**student** [共、複 -er] 学生 [Student, student<ラ studens 研究する人]

**stum** [形] 口のきけない（stumm, dumb）

**stænke** (stænkede, stænket) ふりかける (spritzen, splash)

**stå** (stod, stået) 立っている。stå op 起きる、太陽が昇る [stehen, stand]

**svømme** (svømmede, svømmet) 泳ぐ [schwimmen, swim]

**synd** [発音søn'] [共、複 -er] 罪。det var synd! 残念です [Sünde, sin]

**synes** (syntes, syntes) …のように見える [scheint]

**syntes** (synesの過去) …のように見えた [schien]

**sælge** (solgte, solgt) 売る。-s 売られる (is sold) [sell]

**så** (seの過去) så ud …のように見えた

**så** [接] すると [so]

**sø** [共、複 -er] 海、湖。søen "the sea" [See, sea]

**sønnedøtre** [共、複] 孫たち（息子の娘たち）[Sohnstöchter]

**tage** (tog, taget) 取る [エ take はヴァイキング時代にノルド語より入った]

**tak** ありがとう。tak for mad 食事をありがとう（ごちそうさま）[danke, thank]

**takke** (takkede, takket) 感謝する [danken, thank]

**talende øjne** もの言う目（sprechende Augen, speaking eyes）

**tanke** [共、複 -r] 考え [Gedanke, thought]

**thi** [接] というのは（denn, for, because）["that" の instrumental case]

**til** [前] …へ、…まで。古くは属格を支配した：til bords 食事中で、til fods 徒歩で、til lands 陸路を、til søs 海路を [till, Ziel]

**ting** [共、複 ting] 物、こと [Ding, thing]

**to** [数] 2 [zwei, two]

**tog** (tage の過去) [took]；[中] 汽車 [Zug]

**tordne** (tordnede, tordnet) det tordner 雷が鳴る [es donnert, it thunders]

**tredje** [数] 第 3 の [dritte, third]

**tres** [数] 60 (tre-sinds-tyve 3×20)

**trykke** (trykkede, trykket) i hånden 握手する [drücken]

**træ** (-er) [中、複 -er] 木 [tree]

**tænde** (tændte, tændt) 点火する。-s 明かりがつけられる [anzünden]

**ud** [副] そとへ。han går ud 彼は外出する [aus, out]

**ude** [副] そとに。han er ude 彼はそとにいる

**uden** [前] …なしに。uden at …せずに（ohne, without）

**udenfor** [前、副] …のそとに、外側に

**udgang** [共、複 -e] 出口 [Ausgang]

**udlænding** [共、複 -e] 外国人 [ud-land, ドAus-land]

**udødelig** [形] 不死の（unsterblich, immortal）[u-døde-lig]

**uendelig** [形] 限りない [u-ende-lig]

**ugentlig** [形、副] 毎週の、毎週。ドイツ語と同様、つなぎの-nt- [wöchentlich]

**ung** (yngre, yngst) [形] 若い [jung, young；ラ iuvenis]

**universitet** [中、複 -er] 大学 [ラ universitas]

**var** (væreの過去)

**varm** [形] 暖かい

**vaske** (vaskede, vasket) 洗う [waschen, wash]

**vasketøj** [中] 洗濯物 [vaske 洗う；tøj 道具、物]

**ved** (videの現在) Gud ved 神のみぞ知る [wissen, wit, wise]

**vejr** [中、複 vejr] 天気、風、息 [Wetter, weather]

**veksle** (vekslede, vekslet) 両替する。-s 両替される、両替します [wechseln]

**verden** [共、複 -er] 世界 [Welt, world；<ver-old 人間の時代]

**vi** [代] われわれ [wir, we]

**vide** (ved, vidste, vidst) 知る [wissen, wot, wit]

**vidste** (videの過去)

**ville** [助動詞] (vil, ville, villet) …するつもりである、…したい [wollen, will]

**vistnok** [副] 多分

**vokse** (voksede, vokset) 成長する [wachsen, wax]

**vores** (vor) [代] われわれの [unser, our]

**være** (var, været) …である [war, was, *wes-]

**yngst** (ung の最上級)

**ældre, ældst** (gammel の比較級・最上級) [älter, ältest, elder, eldest]

**år** [中、複 år] 年 [Jahr, year]

**Århus** オールフス（デンマーク第２の都市）[år 川の、os 口、河口]

**årlig** [形、副] 毎年の、毎年

（しもみや　ただお）

# デンマーク語とドイツ語の対照研究

下宮忠雄

この小論はデンマーク語とドイツ語の対照文法の試みである。英語とドイツ語の対照文法はめずらしくないが、デンマーク語とドイツ語は、私の知る限り、まだない。デンマーク語

（言語人口500万）とドイツ語（言語人口１億）はどちらもゲルマン語族の言語だが、系統的にはデンマーク語は北ゲルマン語（＝ノルド語）に属し、ドイツ語は英語・オランダ語と同様、西ゲルマン語に属する。距離の近い言語の比較は、共通点が多いから、つまらないとも言えるが、それだけに、むずかしいとも言える。主要な相違点を４点あげる。(1)音韻的相違：ドイツ語は第２次子音推移（second consonant shift）を経たが、デンマーク語にはそれがない（デ dag “day”、ド Tag）。デンマーク語は、他のノルド語（スウェーデン語・ノルウェー語など）と同様、子音の同化（assimilation）が強力に起こる（デ drekke “drink”, ド trinken において、前者 drekke は drenke の nk が kk になっている）。(2)形態論：ドイツ語では述語的形容詞は語尾変化しない（das Haus ist groß “the house is large”, die Häuser sind groß “the houses are large”）が、デンマーク語は、他のノルド語と同様、性・数の変化をする（上記の例は huset er stor-t, husene er stor-e）。ドイツ語は wer（誰が）、wem（誰に）、wen（誰を）の格変化を保持しているのに対し、デンマーク語は、スウェーデン語やノルウェー語と同様、hvem（誰が、誰に、誰を）に融合してしまった（格の融合 case-syncretism）。その際、与格（dative）が生き残った（英語 whom, him, themの-m と同じ）。また、ドイツ語は mir（私に）、mich（私を）、dir（君に）、dich（君を）のように与格と対格を区別して残っているが、デンマーク語は mig（私に、私を）、dig（君に、君を）のように、同形になってしまった。その際、対格が生き残った（-g はゴート語 mik, þik の k にあたる）。(3)総辞論：デンマーク語では、英語と同様、対格の関係代名詞が省略されている（ドイツ語、オランダ語、フランス語などでは、このようなことは起こらない）。studenten, jeg kender “the student I know”, huset, han bor i “the house he lives in” など。(4)語彙：典型的なノルド語の単語に gammel “old”, hest “horse”, ild “fire”, øl “beer”, gøre “do” などがあり、ドイツ語は alt, Pferd, Feuer, Bier, tun で、まったく異なっている。

キーワード【対照文法　デンマーク語とドイツ語　屈折単純化　ノルド語　後置定冠詞】

# Toward a contrastive study of Danish and German

Tadao SHIMOMIYA

The paper deals with Danish and German in a contrastive framework. When we compare two languages, it may be easier, in some respects, for linguistically distant languages like Japanese and English, and more difficult for closely related languages like English and German. What about Danish and German, both of the Germanic family? Historically, English and German are nearer than Danish and German, since English and German are in the West Germanic group, while Danish is in the North Germanic (Nordic) group. Materials are largely taken from Hans Christian Andersen's *Eventyr* (Fairy Tales) and their German translation.

Among the differences between Danish and German may be mentioned (1) phonologically, stronger assimilation in Danish (drikke "drink" from *drinke, German trinken, lille "little" from *litle, both in regressive direction), (2) grammatically, agreement in gender and number in predicative adjectives (huset er stort "the house is large", husene er store "the houses are

large"), where the adjectives in German are not declined, nominative-dative-accusative syncretism in favor of the dative (hvem "who, whom") , where German has wer-wem-wen, and of the accusative (mig "me", dig "thee") for German mir-mich, dir-dich, (3) syntactically, omission of the accusative relative pronoun (studenten, jeg kender "the student I know"), where German has der Student, den ich kenne, (4) lexically, typically Nordic words (gammel "old", hest "horse", ild "fire", øl "beer", gøre "do") for German alt, Pferd, Feuer, Bier, tun.

*Key words:* contrastive grammar, Danish and German, simplification of inflection, Nordic, postposed article